

楳図かずお 大美術展

天才の証明！マンガノテッペンカラアートノテッペンヘトビウツレ

KAZUO UMEZZ
THE GREAT ART EXHIBITION

2022年9月17日(土)～11月20日(日)

開館時間：火～金 / 10:00～20:00、月土日祝 / 10:00～18:00 ※入館は開館30分まで

休館日：9月26日(月)



展覧会公式サイト
<https://umezz-art.jp/>
展覧会公式Twitter
https://twitter.com/umezz_art

主催：あべのハルカス美術館、読売テレビ、読売新聞社

協賛：光村印刷

協力：株式会社リサイクルパーク、有限会社地域整備開発研究所、株式会社アートフロントギャラリー、ヒノコスタジオ

企画制作：楳図かずお大美術展製作委員会

© 楳図かずお



あべのハルカス美術館
ABENO HARUKAS ART MUSEUM

■観覧料(税込)	当日	前売・団体
一般	1,700円	1,500円
大高生	1,300円	1,100円
中小生	500円	300円

※団体は15名様以上。
 ※前売券は2022年7月2日(土)から9月16日(金)まで販売。
 ※障がい者手帳をお持ちの方は、美術館チケットカウンターで購入されたご本人と付き添いの方1名様まで当日料金の半額。
 ※チケット販売場所:あべのハルカス美術館ミュージアムショップ(美術館開館日のみ)、あべのハルカス美術館ホームページ(オンラインチケット)、近鉄駅営業所、ローソンチケット、チケットぴあ、イープラス、セブンチケット、CNプレイガイド、楽天チケット、近畿日本ツーリストグループの店舗(一部店舗を除く)など。

●お得な先行チケットも発売!
 各種プレイガイド(ローソンチケット、チケットぴあ、イープラス、セブンチケット、CNプレイガイド、楽天チケットなど)で6月11日(土)から9月16日(金)まで販売。
 ①先行ペアチケット2,600円(税込、一般2枚組)
 2枚で1つの絵になる特別なチケットと、ご来館時にお引き換えいたします。
 ②先行親子チケット1,500円(税込、一般1名+中学生までのお子様1名のセット券)
 お子様は実質無料!ご利用は親子同時入館に限ります。

■イベント

①UMEZZ GWASHI! DAYS!
 「グワシ!」ができる特製グワシカードをプレゼント。
 9月20日(火)から10月28日(金)までの平日16:00~、各日先着30枚限定

②ハロウィンナイトミュージアム
 閉館後に実施する各回100名様限定、非売品ポスター付きのプレミアムな賞し切り鑑賞会です。仮装して参加すると良いことがあるかも…?
 開催日時:10月29日(土)、30日(日) 各日18:00~20:00
 料 金:3,000円(税込、一般のみ)
 定 員:各回100名様
 ※ローソンチケット限定販売
 ※当日、ミュージアムショップは18:00に閉店いたします。なお会期中、美術館の営業時間内はいつでもミュージアムショップにご入場いただけます。

③Dress Code DAYS: UMEZZ BORDER
 ボーダー(横縞)柄の服を着てご来館いただいた方にオリジナルポストカードをプレゼント。11月1日(火)から「しましまの日」11月11日(金)までの平日に限り先着配布、無くなり次第終了。

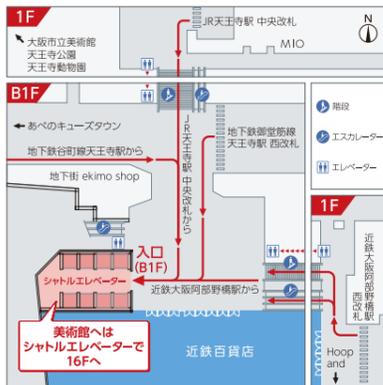
■会場でしか手に入らないグッズも多数販売!
 ※画像はイメージです。デザイン・内容は変更になる場合があります。



あべのハルカス美術館
 ABENO HARUKAS ART MUSEUM

〒545-6016 大阪市阿倍野区阿倍野筋1-1-43
 あべのハルカス16階
 お問い合わせ:06-4399-9050
 美術館公式HP:https://www.aham.jp/

模図かずお 大阪

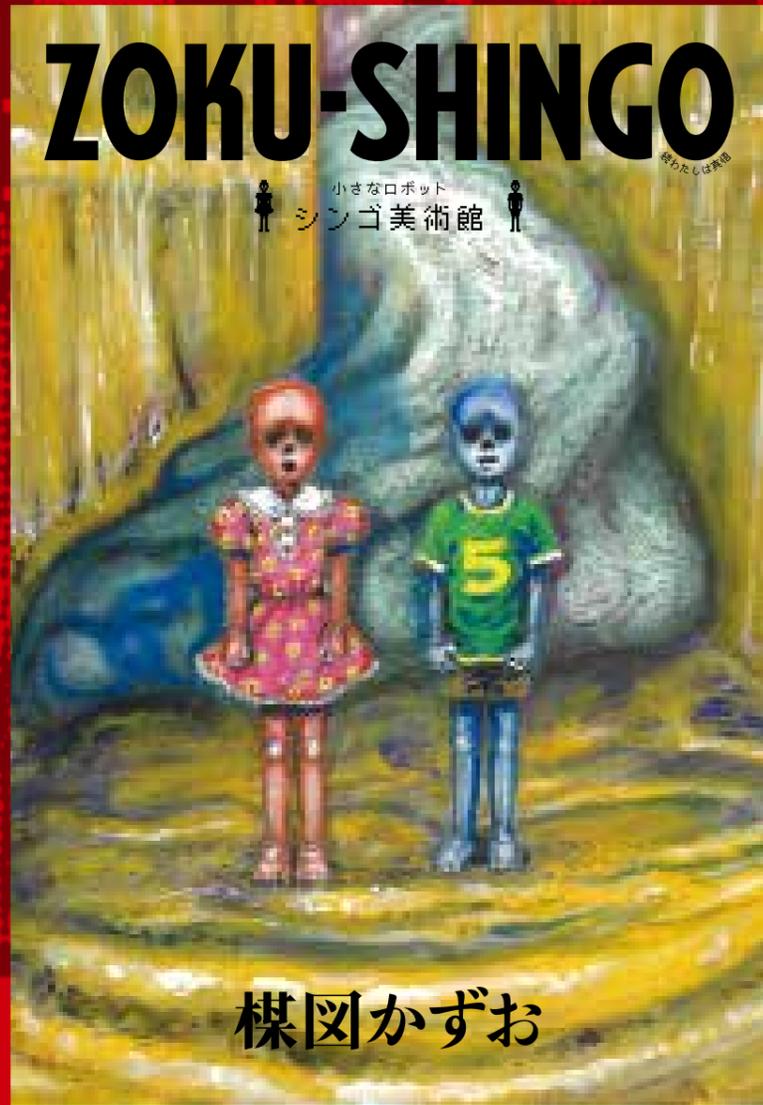


●交通のご案内
 近鉄「大阪阿部野橋駅」、JR・地下鉄「天王寺駅」、阪堺上町線「天王寺駅前駅」下車すぐ。
 ※駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。あべのハルカス美術館へは、シャトルエレベーター【乗り口:地下1階または2階】をご利用ください。
 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催内容の変更や入場制限等を行う場合があります。最新の情報は美術館公式HPをご確認ください。

27年ぶりの新作 『ZOKU-SHINGO 小さなロボット シンゴ美術館』

巨匠・模図かずおが語り、描く!“アイ”の行方 シンゴの物語 [第二章]

1990年代の『14歳』以来、模図かずおにとって実に27年ぶりの新作。制作に4年の期間を費やし、完成した本作は、アクリル絵画による101点の連作という方式を採っています。1980年代に描かれた『わたしは真悟』の続編であり、同時に時空を超えたそのパラレル・ビジョン(並行世界)でもあります。



模図作品をテーマにした、3組の現代アーティストによる インスタレーション・アートも必見!

『わたしは真悟』、『14歳』、『漂流教室』は描かれた時代の社会的な背景や文脈を超えて、いま読んでも驚くほど生々しく、その先見性には改めて目を見開かされます。新作『ZOKU-SHINGO 小さなロボット シンゴ美術館』とこれらの模図かずお作品をアート界の気鋭の才能、エキソニモ、富安由真、鴻池朋子の三者に委ね、インスタレーションとして展開します。

エキソニモ



撮影:Niko

千房けん輔と赤岩やえにより、1996年よりインターネット上で活動開始。2000年以降は、表現の場を実空間へと拡張し、デジタルとアナログ、バーチャル空間と実空間など、ふたつの世界を自由に横断しながらその境界線にフォーカスしたプロジェクトを数多く手がけている。2015年よりニューヨークを拠点に活動。2020年に個展「UN-DEAD-LINK」(東京都写真美術館)開催。2021年、芸術選奨 美術部門 文部科学大臣新人賞受賞。

×『わたしは真悟』

富安由真



2005年に渡英し、ロンドン芸術大学Chelsea College of Artsの学部と修士課程で学ぶ。帰国後、2017年に東京藝術大学にて博士号(美術)取得。現実と非現実の狭間をモチーフに大型のインスタレーション作品や絵画作品を数多く発表する。主な個展に「アベルト15 富安由真 The Pale Horse」(金沢21世紀美術館、2021年)、「漂泊する幻影」(KAAT 神奈川芸術劇場、2021年)、「くりかえしみるゆめ Obsessed With Dreams」(資生堂ギャラリー、2018年)など。主な受賞歴に第21回岡本太郎現代芸術賞 特別賞受賞(2018年)など。

×『ZOKU-SHINGO(素描)』

鴻池朋子



撮影:永穂 賢

玩具のデザインを経て、様々なメディアを用いて言語の境界、現代の神話をトータルインスタレーション表現。地形や気候なども巻き込むサイトスペシフィックな展示や、触覚の可能性を探るプロジェクトも行い、芸術の根源的な問い直しを試みている。個展「根源的暴力」(群馬県立近代美術館、2017年)にて芸術選奨文部科学大臣賞、個展「ちゅうがえり」(アーツィゾン美術館、2020年)にて毎日芸術賞受賞。1960年秋田県生まれ。

×『14歳』

キュレーター 窪田研二

上野の森美術館、水戸芸術館現代美術センター学芸員を経て2006年よりインディペンデント・キュレーターとして活動。2012年-2016年、筑波大学芸術系准教授として創造的復興プロジェクトに参加。社会においてアートが機能しうる可能性をアーティストや大学、企業などと協働し、様々な文化的フォーマットを用いて試みている。「六本木クロッシング2010- 芸術は可能か?」(森美術館、2010年)、「Asian Art Biennale」(国立台湾美術館、2017-2018年)、「Reborn-Art Festival 2021-22 (夏会期)」(宮城県)他、国内外の展覧会キュレーションを多数手がける。現在、学習院女子大学非常勤講師、川村文化芸術振興財団理事。



模図かずお
 1936年、和歌山県高野山に生まれ、奈良県で育つ。小学校4年生で漫画を描き始め、高校3年生の時、『別世界』森の兄妹をトモブックス社から単行本で出版し、デビュー。「へび少女」猫目小僧」などのヒット作により、ポラー漫画の神様」と呼ばれる。『漂流教室』で小学館漫画賞受賞。一方、「まことちゃん」でギャグの才能も発揮。作中のギャグ、「グワシ」は社会現象となった。このほか、『おろち』『洗礼』『わたしは真悟』『神の左手悪魔の右手』『14歳』など、数多くのヒット作を生み出す。その他、タレント、歌手、映画監督など多数の肩書きを持ち、様々なジャンルで活躍中。2018年、『わたしは真悟』で仏アングレーム国際漫画祭「遺産賞」受賞。また同年度、文化庁長官表彰受賞。

「模図かずお大美術展」開催に寄せて
 アドバイザー 榎木野衣 (美術評論家)
 模図かずおは、歴史に名を刻む傑出したマンガ作品を数多く私たちのもとへ届けてくれた。そのジャンルは恐怖マンガからギャグマンガ、少年少女もの、劇画、SF、アクション、さらにはウメズ・ワールドとしか呼びようのない、余人ではとうてい分類不能な領域に至るまで、ひとりの作家の手によるものとは思えないほど幅広く、深い。その前人未到の業績は、まさしくマンガ界の宝という言葉がふさわしい。けれども同時に、模図作品には、マンガという既存の分野だけでは語りきることができない先見的な世界観や幻想的なヴィジョンが、至るところで発揮されている。これらの側面をとらえるため、より普遍的な意味での芸術家としての模図かずおを提示しようというのが、本展の趣旨である。
 その核心に存在するのは、未来への希望を作り出すのが、どんな危機を前にしても勇気を持って一歩を踏み出す、常に若々しい私たち一人ひとりの内なる生命活動だということだ。たとえ破滅的な苦境にあっても、決して希望を捨てず、不滅と呼んでよい他者への汲み尽くせぬ愛に導かれて奔放に想像し、大胆に行動する!それが模図かずおを「大美術」として読み解く最大の鍵なのだ。